

市民に信頼され、公平、中立な市政運営を求める要請書

流山市議会議長 海老原 功一 殿

2015年6月3日

日本共産党流山市議団 いぬい紳一郎
植田和子
徳増きよ子
小田桐たかし

2015年5月20日頃、市議会議員、市政関係者様宛とした手紙と『副市長メモ』と書かれた文書が同封され、党議員4人に届けられました。また、同趣旨の手紙は、他会派、他議員にも届けられていると確認しています。

この手紙は、出所不明であることから、信ぴょう性等も十分加味した対応が求められます。しかし、同封されていた「小中併設校、総合体育館の建替え事業について（平成24年12月6日）」の『副市長メモ』は、この4年間、市議会でも賛否や異論などが噴出し、市長による予算の凍結発言、異例の特別委員会設置、補正予算案の修正などがあった2大事業において、市政への信頼性、公平性や行政運営における中立性をも大きく揺るがす内容となっています。これは、原発再稼働を進めたい行政の『やらせ』が発覚し、大きな批判を広げた事例を連想させ、見過ごすわけにはいきません。

問題点の第1に、『副市長メモ』は、副市長の指示で、行政が進めたい方向へ、世論誘導を図ろうとした疑念が持たれること。第2に、総合体育館や学童クラブを運営している指定管理者など公的な契約が絡む利害関係者を利用した世論誘導を図ろうとした疑念が持たれること。第3に、新しく開設する学童クラブを運営する指定管理者の決定前にもかかわらず、特定されたNPO法人があるかのような疑念を持たれかねないこと。第4に、小中学校のPTAの目的を踏み外し、さらに特定の小中学校を名指しし、行政を進める方向へ世論誘導を図ろうとした疑念が持たれること。第5に、政治的介入があってはならない小中学校の校長及び教頭にまでパブリックコメントへの協力を要請し、かつ政治的中立性を踏み越え、特定の方向性での意見提出を求めていることがあげられます。

以上のことから、議長に対し、市政の信頼性等を失墜させないために以下のことを要請します。

記

1、『副市長メモ』についての事実関係を調査、及び議会への報告を執行部に要請すること。

以上